

DATA FILE



単斜晶系

名 前	SCOLECITE (スコレサイト) / スコレス沸石
化学組成	$\text{CaAl}_2\text{Si}_3\text{O}_{10} \cdot 3\text{H}_2\text{O}$
色	白色
光 沢	ガラス光沢、絹糸光沢
蛍 光	なし (稀に黄色の蛍光あり)
条 痕	白色
劈 開	完全
断 口	貝殻状
硬 度	5
比 重	2.2

スコレス沸石

SCOLECITE

ス

ガラスのような光沢や絹糸の
ような光沢を持ち、素焼きの
陶板にこすりつけると白色の
条痕が残る。

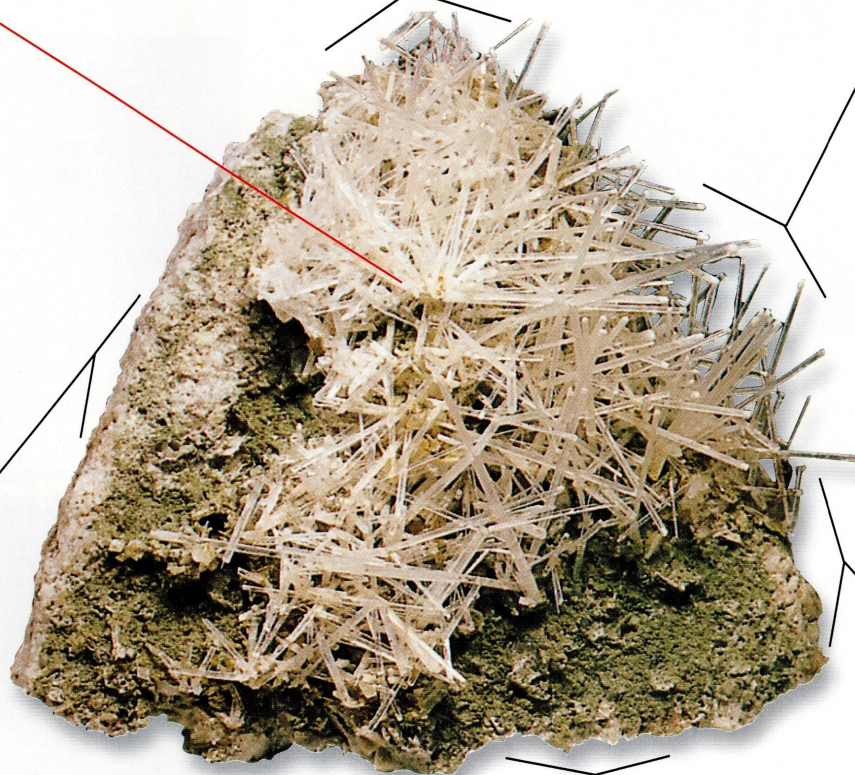
スイスで産出し
たスコレス沸石。

ハンマーでたたく
と貝殻状の断口を
示す。

条線が入った細長い柱状
結晶や、針状結晶の放射
状集合体であられる。

沸石グループのひ
とつで、結晶水を
含有している。

玄武岩などの火山岩の空洞
や、石灰岩が接触変成作用
を受けてできた岩石中に見
られる。

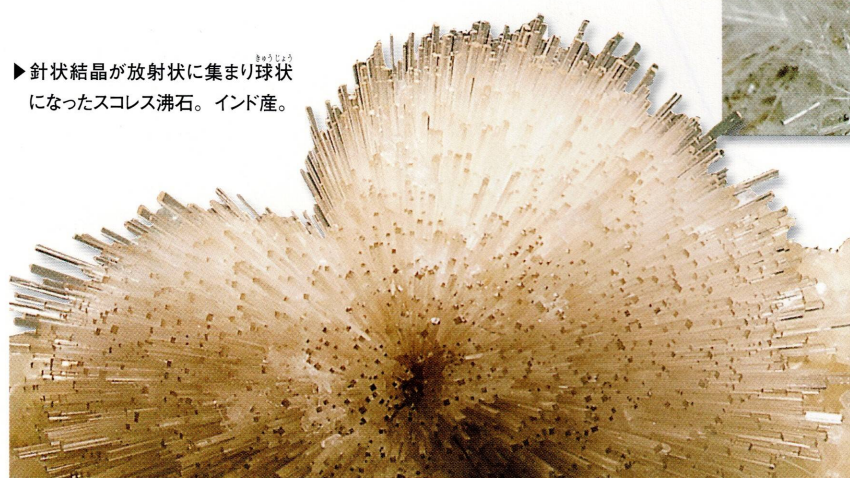


火にかざすと融解

沸石グループに属するスコレス沸石は、1813年にドイツの化学者であるA・F・ゲーレンとJ・N・フォン・フォックスによって独立した鉱物として認められた。結晶水を含有する鉱物（含水鉱物）は、通常、熱が加わると水を放出してすぐに結晶が壊れてしまうが、スコレス沸石の場合は結晶構造が壊れにくい。

その一方で、針状の結晶を火に直接かざすと、すぐに融解して丸くなるのが特徴。このときの形が、ワーム（ミミズのような虫）が丸くなる姿に似ていることから、ギリシャ語で「ワーム」を意味する「スコレクス」を語源として鉱物名がつけられた。

▶ 針状結晶が放射状に集まり球状になったスコレス沸石。インド産。



▼ 細い針状結晶が集まったスコレス沸石。イタリア産。



スコレス沸石の見分け方

スコレス沸石は、同じ沸石グループのソーダ沸石や中沸石と外観が酷似しているため、見分けがつきにくい。その判別方法は含有成分を確認することで、ソーダ沸石と中沸石がナトリウムを含むのに対し、スコレス沸石はナトリウムをまったく含有していないことから判断できる。

▼ イタリアで産出したスコレス沸石の結晶集合体。



主な産地

